

令和4年度 県立古河第二高等学校 自己評価表

目指す 学校像	生徒一人一人が、自らの夢の実現のため、いきいきと安心安全に学ぶことのできる学校づくりを力強く推進するとともに、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為の人材を育成する。		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
本年度も日課の適正な運営及び学校行事の精選により授業時間の適正な確保を図っていく。本校においては、基礎的な学力の習得や学習習慣の確立という点で依然として課題を抱えている。そのために学び直しを主とした「わかる授業」への取組や「朝の時間」を利用したドリル学習等の教育活動を本年度も継続していく。また生徒が主体的に学習に取り組む授業や補充的学習・発展的学習等確かな学力の実現のため、PCやタブレットなどを活用した授業を積極的に行うほか、学習指導に関する校内研修を積極的に進めていく。 進路別見学会や進路講演会等、進路実現のための様々な取り組みを通じて生徒の進路意識の醸成に関し一定の成果がみられた。また、教育課程の改編や進学課外の充実等を進めてきたおかげで、大学進学者の数が年々増えてはきているが、ここ数年は国立大学の合格者が出ていない。今後、課外を含む進学クラスへの支援の在り方の再検討や就職を希望する生徒への一層の手厚い指導等進路指導面での	学習意欲の喚起と基礎学力の向上	① 分かる授業を実践することで生徒の学習意欲を喚起し、授業や家庭学習に取り組む習慣を身につけさせる。 ② 学び直しをはじめ、生徒の基礎学力向上への取り組みや支援を積極的に推進する。 ③ 生徒が意欲的に授業に取り組むことで知る喜びを生きる力に変えられるよう、学習指導に関する研修を推進し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業への工夫・改善を行う。 ④ 各教科で1年に2回以上は研究授業を行い、50%以上の生徒が肯定的に取り組めたという評価が得られるように指導する。 ⑤ 行事を精選と適正な実施に努め、授業時間を確保する。 ⑥ 生徒の実態や進路希望に応じた特色ある教育課程の編成に努める。 ⑦ 福祉科において介護福祉士国家試験の合格率80%以上を維持する。	A
	進路に関する知識と関心・意欲の養成、進路指導の充実	⑧ 3年間を見通した体系的進路指導を計画的に実施し、生徒の将来への進路意識の高揚に努める。 ⑨ 年間指導計画の充実を図り、課外学習、進路講演会やコース別進路見学会等に注力する。 ⑩ 進学・就職の両面において、将来の進路先の開拓と充実に努力する。 ⑪ インターンシップの定着を図るなど生徒の職業観・勤労観を育む機会を設定し、「キャリア教育」の推進に尽力する。 ⑫ 就職内定率を100 %、早期退職の未然防止等を図るため、生徒一人一人とのより充実した面談により、的確な進路実現を目指す。 ⑬ 生徒の進路決定満足度80%以上を目指す。 ⑭ 教科選択や授業内容・評価等に、類型ごとの特色や目標を明確にし、進路指導を推進する。	A
	問題行動の予防と再発防止及び規範意識や社会性の涵養	⑮ 規律ある基本的生活習慣の定着や問題行動の未然防止・早期発見に努める。 ⑯ 規範意識を高めるとともに、授業や特別活動等教育活動全体を通じて、コミュニケーション能力や自己指導能力等を育成する。 ⑰ スクールカウンセラー等の外部人材と連携して、生徒の健全な心身の発達を支援すると共に、特別な配慮の必要な生徒等を含めた生徒理解に努め、的確な指導にあたる。	B

充実が望まれる。 生徒指導面では服装・頭髪指導等においてある程度成果が得られたが、生徒の基本的な生活習慣が十分に確立されてないことや、社会性が身につけていないことなどの課題も依然として残っている。 特別活動においては、学校行事の充実、生徒会・各種委員会活動の改善・充実、部活動の活性化が課題である。 働き方改革では、まだ超過勤務時間が月に４５時間以上の職員が見られるので、業務の精査や仕事を多くの教員で割り振るなど、様々な改革を行っていききたい。	特別活動及び部活動への積極的参加の呼びかけと活性化		⑱ 学校行事・生徒会活動・ホームルーム活動等を通じて、生徒の豊かな心を育み、学校生活に対する意欲を育て、その充実を図る。 ⑲ 部活動への積極的な参加を推進し、その活発化を支援する。	B
	地域への情報発信と相互支援体制の充実		⑳ 生徒の活動や普段の取り組みの様子、本校の特色等を、家庭や地域社会に発信する手立てを工夫する。 ㉑ P T A、中学校、地域社会と課題を共有し、信頼と相互支援により連携・協働して生徒育成を図る体制を構築する。	A
	働き方改革の推進		㉒ 超過勤務45時間／月を超える職員が無いよう、業務の精査、ワークシェアをはかる。	B

三つの方針			具体的目標					
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)			「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為な人材の育成				
			「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程と進路実現				
			「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 自分の進路実現を目指して積極的に取り組む生徒				
			具 体 的 目 標	具 体 的 方 策		評 価	次年度(学期) への主な課題	
教 科	国 語	授業目標に沿う授業計画案等を作成し、担当者が連携することで授業の向上に努める。	指導状況や授業態度等についての情報や教材を交換したり、研究協議を有効活用したりすることによって、わかる授業の展開・授業改善に供する。 (①)			B	B	・ I C Tの活用については、今後効果的な利用法を検討していく必要がある。

		副教材を活用し、基礎学力の定着を図る指導方法を工夫する。	語彙力を高めるドリルや授業内容の理解を確認する学習課題を工夫し、進路実現のための基礎学力定着を図る。（②）	A		・計画と実情を照らし合わせて、生徒にとって効果的な授業を行えるよう、対応したい。 ・漢字検定への対応は、学校外受検への移行を含めて検討する必要がある。
		生徒がより積極的に授業へ参加できるよう方法を工夫し改善する。	生徒の学力に見合った課題や発問の工夫や、ICT機材の活用による視覚的支援によって、授業への積極的参加に供する。年間指導計画表に従い、計画的な授業を展開する。（③）	B		
		資格試験の積極的受検を促す。	漢字検定試験への参加を促すとともに、適宜教材を提供して、生徒の学習に寄与する。（②）	B		
	地歴公民	基礎学力を身につけさせるための工夫をする。	授業の導入段階で学習課題を明確に提示し、教員と生徒間で学ぶ意義を共有する。既習内容等を確認しながら分かる授業を展開する。授業公開及び研究協議を行い、指導内容についての相互理解や指導方法についての検討も行う。（①）	A	A	・指導内容と実際の生活をより密接に近づけるような発問を考えたい。 ・タブレット使用の頻度を増やし、用語や資料への理解を高めさせたい。
		指導方法・評価方法の工夫・改善に努める。	学習内容の定着を図るため、小テストなどを活用する。ノート点検やプリント提出により、日々の授業を大切にする学習習慣を身につけさせる。とくに公民科では時事的な問題にも関心を持つようにさせる。（②）	A		
		授業展開を工夫する。	生徒が興味・関心を持って積極的に授業に参加できるよう、タブレットや電子黒板等の視聴覚・実物教材を活用し興味・関心を高める。（③）	A		
	数学	基礎学力の向上および発展学習のための支援を積極的に行う。	少人数指導によるきめ細やかな指導を行い、その成果と課題を明確にし、改善を図る。（①）	B	B	・学習者用端末を利用して、探求的な学習を行うなど授業のICT利用をさらに進めていきたい。 - また、授業の中で、学び直しや確認テスト等を計画的に行い、基礎学力の向上や学習習慣の定着を図りたい。
			小、中学校で学んだ考え方や計算を学び直し、プリントを使い基礎学力の向上を図る。（②）	B		
			理解度が不十分な生徒への分かり易い補習授業や、進路を意識した高度な課外授業を実施する。（①・②）	A		
		学習習慣の定着に努める。	授業中のノートや家庭学習用の問題集等を定期的に点検し、学習する習慣をつける。（①）	A		
		教員間の連携をとり授業内容の改善を図る。	教科会等で、授業進度や学習状況等の情報交換、わかる授業展開について指導方法を研究協議する。（③・④） コンピューターやタブレットなどを活用し、授業改善を図る。（③）	B		

	理科	学びなおし学習を導入し、自然現象に関する基礎学力を身につけさせる。	単元ごとに学び直しと問題演習の時間を取り、自然現象に関する基本的な学習内容の定着を図る。(②)	A	B	- 電子黒板やタブレットを活用し、自ら探究する力を養う。 - 科学的な考え方で問題解決ができるように指導する。
		観察する力、表現する力を身につけさせる。	実験レポートや観察の際のスケッチなど、見たこと・聞いたこと・感じたことを表現させる。ICTを活用し、表現力を高める。(③)	B		
		興味・関心を高め、学習意欲の向上に努める。	実験やタブレットPCを用いた視聴覚教材を授業に取り入れ、科学的な現象を体験・体感できる機会をつくる。また、生徒同士が話し合う機会をつくり主体的な学びを促す。(③)	B		
教科	保健体育	基礎体力を高める。	様々な運動を経験できるよう、運動時間を確保する。(①)	A	A	- 保健：googleアンケート機能を使用し、挙手しなくても回答できるように準備をする。 - 体育：動画や資料を視聴できるようWi-Fi環境の整備をお願いする。
			運動の基礎技術について理解し、積極的に運動に取り組めるようにする。(②)	B		
		運動に親しむ生徒を育てる。	ゲームなどを通して、仲間と協力して運動に取り組む。(③)	A		
			競技・ゲームを楽しめるように、ルールや試合の進行方法を学ばせる。(③)	B		
		自らの心身について関心を高めさせる。	身近な物事や教師自身の体験などから迫り、学習内容に興味・関心を持たせる。	B		
			保健ノートを使用し、学習内容を定着させる。(②)	A		
			視聴覚教材などを利用しながら、自らの健康管理の方法について考えさせる。	A		
	芸術	芸術的な能力を伸ばし、美に対する感性を高め、感興・意欲の触発と高揚に努める。	興味を持って取り組める授業内容にするため、プロジェクターやタブレットなどを活用し、生徒にとって理解しやすい授業のための工夫・改善を図る。(③)	B	A	- 書道：毎時間のICT機器の活用によって、生徒に授業への興味・関心をもたせる。 - 音楽：習熟度別指導を通して、生徒自身が有意義な演奏体験を体感できるようにする。
			教員は積極的に研修に努め、生徒の実態に即してわかりやすい授業展開に努める。(①)	A		
		学習態勢の整備に努める。	規律ある生活習慣を定着させるため、用具の準備・片付け等をきちんとする習慣付けを行う。(⑫)	A		
	英語	基礎学力の向上を図る。	定期的に課題を出すことで家庭学習の習慣を確立する。(①)	B	A	話すこと・書くことなど、プロダクティブな活動を増
			単語集を利用して定期的に小テストを行い、単語力をつけさせる。(①)	B		

			学び直しにより中学既習内容を身につけ、高校レベルの英語に対応できるようにする。(②)	A	A	やすことにより、実践的な英語習得と共に、英語を使う喜びを生徒が感じるようにする。 ・チーム英語科として、教員間で意思疎通を図り、指導していきたい。
		個々の生徒の能力や実態に応じた指導をする。	少人数学級を活用し適宜学習の理解度を把握し、個に応じたきめ細やかな指導をする。(①・②)	B		
			希望者を対象に放課後や長期休業中に課外授業を行い、大学等入試に対応できる応用力をつける。(①・②)	B		
		言語や文化に対する理解を深め、実践的コミュニケーション能力を高める。	ペアワークやグループ活動を通してアウトプットする機会を増やし、コミュニケーション力をつけさせる。(③)	A		
			A L Tを活用することによって、英語でコミュニケーションを図る喜びを感じさせる。(③)	A		
		外部試験を活用する。	各級に分けた英検対策を行う。さらに、二次試験のための面接対策も実施し合格者を増やす。(①・②)	A		
	家庭	学習内容の定着に向けた取り組み	単元ごとに小テストを授業内で実施し、基礎基本の学習事項が定着するよう促	B	A	・ICTを有効的に使う方法を検討したり、授業内容や実験実習の方法を工夫したりなど、わかる授業を実践するために取り組んでいきたい。
			実物投影機やパソコン、i P a d、視聴覚教材を活用し、生徒にとって理解しやすい授業研究を行う。(①)	A		
		考える力・実践力の実践	実技試験を通して実技能力の向上を図る。(③)	A		
			ホームプロジェクトの実施により、問題解決のために必要な考える力を養う。	A		
	情報	情報リテラシーを高める。	情報収集・情報編集・情報発信の方法について実習を通して理解する。(①)	B	B	・来年度はプログラミングが入ってくるので、生徒が興味を持ち楽しんでプログラミングが学べるように、学習指導計画を行う。
		情報機器の操作技術を高める。	情報機器としてパソコンの使い方、特にワードプロや表計算、プレゼンテーションソフトの使い方についての技術を習得し向上させる。(①)	A		
		情報モラル育成に努める。	問題解決を生徒同士でコミュニケーションをとりながら行い、情報モラルを遵守する精神を養成する。(③)	B		
	福祉	福祉人材としての意識と資質を向上させる。	福祉科行事や施設実習の他、ボランティア活動や特別支援学校等との交流等を通して、意欲の向上に取り組むとともに、キャリアを生かした進路につなげる。(⑧・⑪)	B	B	・ボランティア活動も一部再開し、地域のボランティア活動に企画段階からかか

			授業や清掃・学校行事等の日常生活を大切にし、基本的生活習慣・礼儀・マナーの向上を図る。(15)	B	B	わり参加できる生徒もいた。交流等においては、オンライン等のかたちを変えながらも実施することができた。 ・今後も普段の活動や授業も活かしながら、国家試験合格に向けた取り組みを継続していきたい。
		介護福祉士国家試験に向けた指導を充実させる。	介護福祉士国家試験全員合格を目指した十分な授業時間数を確保し、基礎・基本を重視したわかりやすい授業を心がけるとともに、課外・模擬試験・実技練習等多様な指導を実施する。(3・7) 新しい指導法や指導内容の検討など、学科内・普通教科との連携を図る。(3・4)	B		
教務	授業時間の確保		学校行事を精選し、授業時間の確保に努める。(5)	A	A	観点別評価を確立するために、次の2つの課題を検討する。 ・定期考査のやり方について検討する。 ・観点別評価の評価の仕方を全教科で統一する。
			授業の振替を原則とし、自習時間を極力少なくする。(5)	A		
	基礎学力向上及び学習意欲の増進		教員の学習指導等についての研修を推進する。特にタブレットやPCを活用した授業について研修を行う。(1・3・4)	B		
			教科による「学び直し」を推進し、基礎力の定着を目指す。(2) 保護者と連携して成績不振者の改善を促す。(21)	A		
	教育課程の編成		生徒の実態や進路希望に適応した特色の有る教育課程を編成する。(6)	A		
生徒指導	ルールやマナーを守るという意識の高揚に努める。		ルールを守る意義を理解させ、自ら考え行動できるような指導を心がける。規律ある基本的生活習慣の定着を目指し、生徒に様々な形で指導する。(15)	B	B	いじめや暴力のない安全・安心な明るい学校づくりのために、学校・学年体制で情報を共有し、組織的な生徒指導を継続する。 スクールカウンセラーやSSW、また外部機関との連携をより図っていききたい。
			学校全体で統一した指導となるよう、統一したルールを確立し、各学年との連携を図る。(15)	B		
	生徒が抱えている内面的問題を把握し、健全な心身発達の支援に努める。		学年・担任と連携して問題を把握し、適切な対応をしていく。またカウンセラーや保健部と連携して教育相談の充実を進める。特にいじめ問題には早期対応が出来るように心がける。(17)	A		
			保護者との協力関係を高め、問題行動の未然防止・早期発見に努める。(21)	B		
	特別支援教育を必要とする生徒を把握し、個々の指導に努める。		特別支援教育は、該当する生徒及び他の生徒も安心して学校生活を送ることが出来るようになる視点で体制づくりを進める。教職員の研修を行い、特別支援教育に対する意識を高揚させ、生徒理解を深め、的確な指導を心がける。(17)	B		
			専門機関の協力を得て、支援生徒の把握に努め、指導計画を立案していく。(17)	B		

特別活動	生徒会活動の活性化	生徒会役員が率先垂範して生徒たちに自覚ある行動を促すことができるよう、指導する。(16・18)	A	B	生徒会活動に力を入れ、生徒会の生徒が主体的かつ意欲的に行事等で活躍する姿が見られた。 校内外のよい活動をHPに掲載したり、全校生徒にアピールするなど広報活動を充実させたい。 部活動の加入率は時代のニーズからも厳しい状況であるが、各部がそれぞれの活動をもっとアピールしていく必要はある。 水泳競技や柔道など部がなくても頑張っている生徒もいるため、そのような熱量ある生徒を応援していく体制を取っていく必要がある。
		生徒総会やクラスマッチ、文化祭などの学校行事について自主的・自発的な行動を促し、生徒を主体とした企画・運営が行えるよう、計画的に指導する。(18)	A		
	学校行事へ積極的に参加する態度の育成	各ホームルーム役員や各種委員会の委員として、クラスマッチや文化祭などの学校行事に積極的に参加する態度を育成する。(18)	B		
		生徒会新聞やホームページなどを活用した広報活動の充実を図る。(18・20)	B		
	部活動の活性化	部活動連絡板やホームページ等を利用し、各部活動の活動状況や活躍を全校生徒に向けアピールする。(19・20)	B		
		部活動紹介や体験入部を行い、部活動加入率の向上を図る。(19)	B		
		日ごろの練習や練習試合等を通して、部活動全体の活性化とレベルアップを図る。(19)	B		
		日々の活動や学校内外の生活の中での規範意識を育てる。また、活動場所の整理整頓を心がけ、活動環境を整備美化する。(16・19)	B		
	ホームルーム活動の充実	クラスマッチや文化祭などの学校行事を通じて、達成感を味わわせクラスの連帯感や協調性を養う。(18)	A		
		ホームルーム活動でキャリア・パスポートを積極的に活用し、定期的に振り返りを行うことで自己理解につなげる。(13)	B		
進路指導	職業観および進路意識を高めるためにキャリア教育を充実させる。	進路見学会(1・2学年)や進路セミナー等の外部との関わりを通じて、進路意識を高めるように努める。(8・9)	A	A	コロナ禍ではあったが、バス見学会、ガイダンス等の進路行事が実施できた。担当の先生がぎりぎりまでやる方向で調整した結果であったと思う。また、インターンシップは日数は少なかったが、グーグルクラスルームを使い、生徒と連絡を取りながら進めるやり方がとてもよかった。進路結果は生徒の希望が叶う形になったと思うが、未定が
		職業意識を高めるために、各学年で段階的な指導を行う。とくに2学年ではインターンシップや一日看護体験を実施して意識付けを行う。(11)	A		
		キャリアパスポートを活用し、インターンシップ、バス見学会、職場体験など3年間を通して、進路意識を高める。(11)	A		
	教員間の適切な進路情報の共有をはかる。	進学・就職とも進路情報交換会を開き、次の学年に的確な情報をおくる。	B		
		大学や専修学校等の説明会に参加し、的確な情報を教職員・生徒に提供する。(9)	A		
	生徒の適性を把握するとともに、進学・就職とも生徒のより高度な目標実現のための手助	朝ドリル、課外学習の時間等を設けなどを利用し、生徒の基礎学力を高め、進路実現の可能性を高めていく(2、10)	A		
		生徒の進路満足度を80%以上にする。(13)	A		

	けをする。	教科選択、授業内容、評価等に各類型ごとの特色や目標を明確にし、進路指導を行う。(14)	B		少し多かったので来年度の課題にしたい。
図書	図書館施設の安全と充実	書架や図書館資料の保管状態を定期的に点検し、適正な状態で利用できるよう配慮する。(1)	B	B	新システムには便利な機能が多くあるのでさらに有効利用していきたい。また行事内容の見直しや外部のコンクール等にも積極的に参加し、生徒の読書活動の活発化につなげたい。図書資料の配置については必要に応じてコーナーを作り、利用しやすい配置等を心がけ、図書室の利用につなげたい。
		館内施設の安全と利便性を考慮に入れて、備品の入れ替えやレイアウトを工夫する。(1)	A		
		図書館及び視聴覚室の授業等での利用について、利用表を作成し管理する。(1)	A		
	図書館資料の拡充	図書資料については「全国学校図書館協議会図書選定基準」などの客観的な基準および本校の実情に沿って選定・受入する。(8)	B		
		蔵書構成の偏りを是正し、教科指導にも利用できる図書資料群を選定・受入する。(8)	B		
	図書館資料と利用者管理の一元化	管理ソフトを活用し、利用者管理や資料管理を一元化して作業能率を高める。(22)	B		
図書	図書委員会の活性化と読書習慣の涵養	様々なコンクールに参加するなど年間行事の中に生徒の読書意欲を啓発する場を確保していく。(20)	C		
		図書委員会活動として、図書館便り「ぱびるす」を年10回発行し、生徒に興味・関心をもって読んでもらえるような紙面づくりをする。また新聞記事のスクラップ等を行い、図書資料の充実を図る。(18)	A		
		図書委員会を計画的に実施し、生徒図書中央研修会に参加する。(18・20)	B		
保健	学校の安全管理・環境整備・美化に努める。	施設設備の安全点検と管理に努め、環境衛生検査を実施する。(17)	A	B	・感染症予防対策の継続と、状況に合わせた健康問題への対処をしていきたい。 ・ICTを活用した健康観察の徹底を促していきたい。
		防災訓練等を実施し、非常時の対応を学ばせ、併せて防火・防災への意識を高める。(18)	A		
	生徒の保健管理を徹底し健康教育を進める。	個々の生徒の心身の健康状態を把握し、適切な指導援助を行い、疾病等の予防と管理を徹底する。学年、担任と連絡を密にして情報を共有し、個別に健康相談等を積極的に進める。 ICTを利用した生徒の健康観察を実施する。(17)	B		
		保健だよりや保健指導・保健学習を通して、感染症予防等を含めた健康保持増進に関する情報提供及び意識の高揚を図る。(16)	B		
渉外	家庭・地域との連携及びPTA活動の活性化	周辺地域の新型コロナウイルスの感染状況を常に確認しながら行事の中止や縮小などを柔軟に判断し、生徒育成を目指したPTAの運営を役員と協力して感染防止に重点を置いた上で行う。(21)	A	A	今年度もコロナ禍のため、行事の中止や集まりの規模縮小など、感染防止を最優先した運営を行った。次年度はコロナをめぐる社会の変化をよく見
		保護者に興味・関心を持って読んでもらえるような広報誌「志意の樹」を発行して、生徒の活動や普段の取り組みを地域社会に発信する手立ての一つとする。(20)	A		

	同窓会運営の円滑化	同窓会の運営を役員と協力し、感染状況を鑑みながら実施の有無を検討していく。(20)	A		ながらPTA及び同窓会の役員とより緊密に連携して活動していきたい。
情報管理	情報機器管理の徹底	機器貸出に職員室・職員PC室のロッカー等を利用する。情報機器管理範囲を明確化する。 校務セグメントでのインターネット接続及び校内ネットワーク環境を維持管理する(22)	A	B	Google Classroomを用いた情報共有や学習者用端末、電子黒板を使用した授業展開など、ICT利用をさらに進めていきたい。
	情報漏洩未然防止のためのPCデータ管理の徹底	PCデータの中で生徒の個人情報に関するものはサーバに保存する。 校務支援システムで成績処理を行い、データをクラウド型校務処理サーバに保存する。 個人保有の外部記憶媒体の利用を禁止する。 持ち帰り仕事をなくすように職員間の情報交換を促す校内ネットワークを構築する(22)	B		
	情報機器を活用して授業でのICT利用を進める。	学習者用端末を活用した授業が実施できるように環境を整える。(1・3) 普通教室でのICT利用のための教員の自主研修を促す。(3)	B		
福祉	福祉を担う人材として必要な素養と精神を育てる。	生徒の福祉人材としての意識を少しでも高められるように、様々な人との関わりや体験を通して学ぶ機会を多く設ける。(3・11・20)	B	B	介護実習での経験を多くもつことはできなかったが、地域の施設長会の協力やその他の施設の協力もあり、授業や進路学習といった活動やキャリア教育に取り組むことができた。 学校説明会での体験授業等を再開することで、生徒主体の活動の推進や中学生に対する福祉科の理解をすすめることができた。
	地域との連携により介護福祉士養成校としての役割を果たす。	実習施設との連携を強化し、生徒にとって実習が実り多いものになるように務める。(11) また、近隣小中学校に対して本校福祉科に関する説明を積極的に行い、目的意識を持った生徒の確保に努める。(20・21) 介護福祉士養成カリキュラムの情報交換に努め、周知徹底と指導の充実を図る。 (20・21)	B		
一学	生徒相互の円滑な人間関係を構築させる。	適正なコミュニケーション能力を高めるため、「総合的な探究の時間」「道徳」LHR等を通して、話し合い活動を実践・指導する。(16)	B	A	○年度の後半になると、欠席や遅刻が増えてしまったので、保護者に協力をお願いしながら指導していきたい。
		生徒の悩みや問題点を把握し、生徒理解を深めるため、定期的に面談を実施する。(17)	A		
	学習環境を整備する。	落ち着いた学習環境を作るため、身の回りの整理整頓を指導する。(2)	A		

年		生徒の責任感を涵養するため、役割分担を明確にした清掃指導を励行する。 。(18)	A		○学習内容のレベルが上がってくるので、さらなる丁寧な指導が必要になってくる。 ○部活動の加入率がかなり低くなってしまった。特活部との協力が不可欠である。
	健全な基本的生活習慣を定着させる。	欠席・遅刻・早退を減少させるため、「5・3・1運動」を励行する。(15)	A		
		生徒の生活態度の改善を図るため、保護者との連絡を密にし、理解・協力を求める。	A		
		本校の生徒指導や学習についての認識を図るため、手引きを使ってオリエンテーションを実施する。(3)	B		
	基礎学力を向上させる。	1時間1時間の授業を大切にし、丁寧できめ細やかな生徒にわかる授業に努める。(2)	A		
		進路指導部や各教科と連携し、学び直しを含めた基礎学力をつけさせるための指導を行う。(1)	B		
	3年間を見通した進路計画を立案・実施する。	生徒の進路意識を高めるため、進路見学会や外部講師による講演会を実施する。(9)	A		
		職業を知り、自己を見つめ、自分の適正に応じた進路選択を支援する。(8)	B		
	部活動へ積極的に参加させる。	社会生活を営む力を高めるため、部活動への積極的な加入を指導する。(18)	C		
		活力ある学校づくりに寄与するため、部活動への加入率を5割以上にする。(18)	D		
二 学 年	生徒の基礎的な学力を向上させる。	「朝の時間」を使い、ドリルに取り組みさせて基礎学力を高める。(2)	C	B	学年運営は比較的円滑だったように思う。学年会を木曜日ごとに開催し、生徒の情報を共有しながら進められた。 全体的に見ると、生徒の取り組みの状況や成果、学年の目標達成については、先生方のご協力により良かった。
		落ち着いた学習環境を確保し、学習意欲を高揚させる。(1)	B		
		授業を大切にし、意欲的に取り組みことで、知る喜びや深い学びの実現を目指す。(3)	B		
	基本的生活習慣の確立を目指す。	自己実現に向けて、学校生活の送り方について自ら考えさせ、健康的で意欲的な生活習慣への変容を促す。また、毎日の生活を見つめ、規律ある基本的生活習慣の定着を目指す。(15)	B		
	進路に対する意識を高揚させ、目標を具体化させる。	きめ細かな進路計画を立案し、進路セミナーやコース別進路見学会等を実践することにより、将来の進路を真剣に考えさせ、進路実現を図る。(8・9)	A		
		定期的な進路調査や面談により、具体的な進路目標の確立を図る。(14)	B		
	集団や社会で必要な道徳心を身に付ける。	「道徳プラス」の授業を通して、生徒の豊かな心を育み、社会性や思いやりのある人間の育成を図る。(16)	B		

	勤労奉仕の精神と学校の美化に努める態度を身に付ける。	役割分担を明確にした清掃活動を通して、教室を含めた校内の美化に努める態度の育成を図る。(18)			
三 学 年	基礎学力の向上を図る。	「朝ドリル」等を活用し、進路に応じた学力を身に付ける。(2)	B	B	○朝ドリルの方法については、検討する必要がある。 ○全体的には落ち着いた学校生活を送らせることができたが、一部の生徒で落ち着かない者が見られた。 ○ほぼ全員の生徒が進路決定をすることができた。
		分かる授業を実践し、生徒が主体的に取り組むことで、深い学びの実現を目指す。(1)	A		
	進路に対応できる能力を身に付ける。	できるだけ多くの資格取得を目指し、進路実現につなげる。(10)	B		
		「LHR」や「総合的な探究の時間」の中で進路学習を計画し、生徒各自の進路に応じた系統的なプログラムを立案し実施する。また生徒の政治的教養の教育を学年全体で取り組む。(14)	A		
		進学希望者には、平日の課外・夏季休業中の課外・小論文指導、就職希望者には面接指導を実施することで生徒の進路希望に合わせた進路実現を目指す。(9)	A		
	基本的な生活習慣を確立する。	自己実現に向けて、学校生活の送り方について自ら考えさせ、健康的で意欲的な生活習慣への変容を促す。また、毎日の生活を見つめ、規律ある基本的生活習慣の定着を目指す。(15)	B		
		学校生活の全ての場面で、適切な言葉遣いを使い適切な行動を取ることができるよう指導する。(16)	B		

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：やや不十分 D：不十分